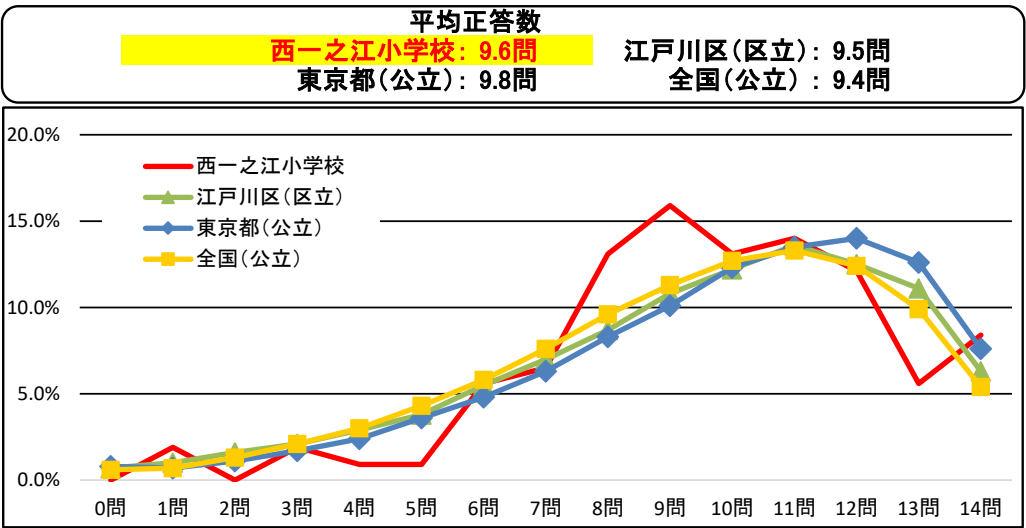


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】西一之江小学校

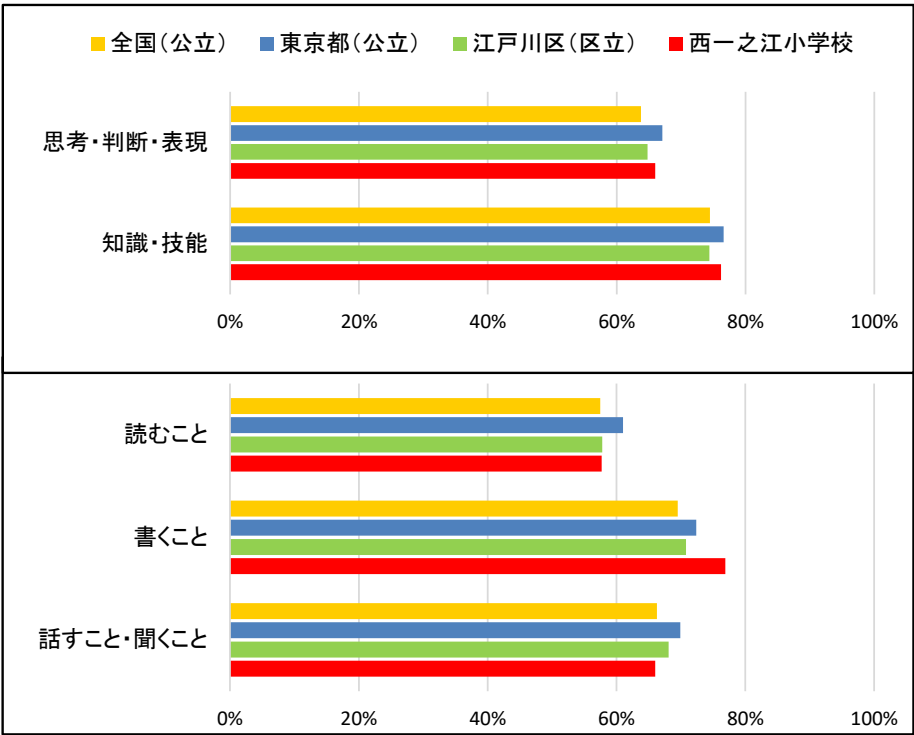
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

西一之江小学校	69%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-1.0

「領域別」の結果

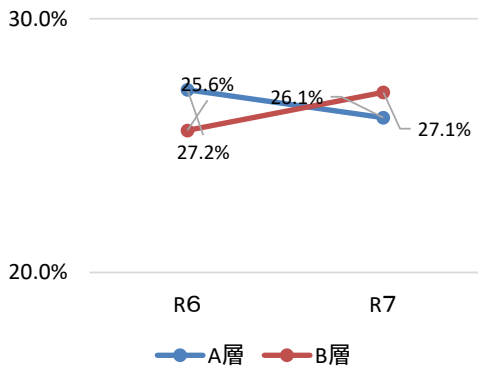


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

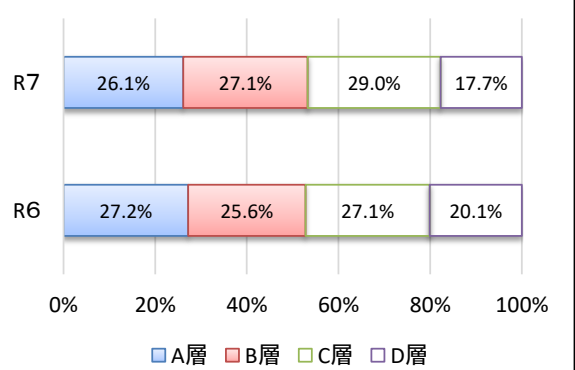
国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
西一之江小学校	26.1%	27.1%	29.0%	17.7%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

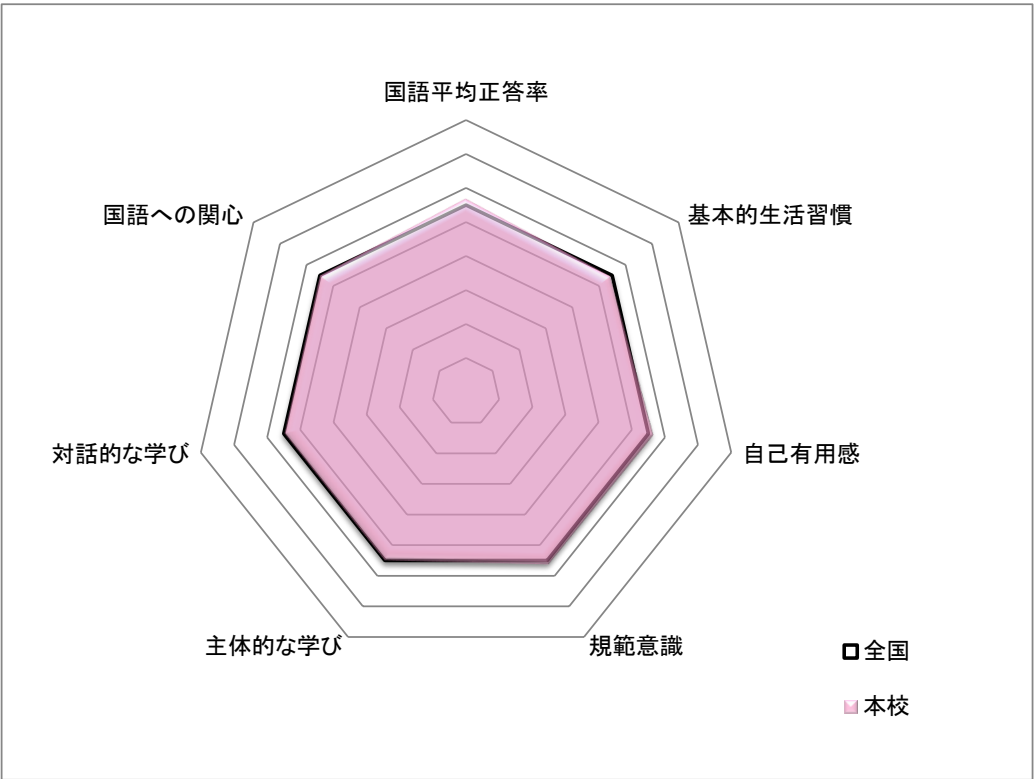
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

○ほとんどの項目において、全国平均とほぼ同様である。普段から全教科において基礎的、基本的な学習活動を繰り返し行っている成果であると考えられる。
○平均正答率については、全国平均を2.1%上回ることができた。

《家庭・地域への働きかけ》

○漢字を確実に身に着けさせるために、必要に応じて再テストを行って結果を家庭に伝えている。
○国語科も含め、それ以外の教科でも基礎・基本や活用の学習をすすんで行えるように、保護者会や個人面談で声掛けする。

《現状把握》

○AB層合計の割合は、令和6年度とほぼ同様であるが、A層の割合が令和6年度と比べて1.1%減っている。昨年度年間通して取り組んできたことに一定の成果が表れているが、さらに指導方法を改善し、AB層全体が増えるようにしていく必要がある。
○「書くこと」の領域が東京都の平均を上回っているが、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域が東京都の平均を下回っている。多くの文章を読む機会を増やし、その内容について要点を抑えて伝え合う学習をしていく必要がある。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

○教師が「児童にとって主体的・対話的で深い学び」のある授業展開になるように、国語科の説明文の学習を中心に、学年での教材研究や学校全体で研修会を行っている。
○主に学年集団ごとに授業を見合いながら、お互いの意見を交わし、授業力の向上に努める。

・基礎学力の保障

○各学年の発達段階に合った方法で、漢字や言葉の基礎的・基本的な知識の習得のために反復学習を徹底して行う。
○上学年は毎週、「よむYOMUワークシート」を活用した読み取り学習を繰り返し行い、児童が基本的な読解力の向上に努めている。

・学習習慣の確立

○学習の基礎・基本が定着できるように、毎日の課題や自主学習で漢字や言語の復習を繰り返し行っている。
○ミライシードにドリルパークを活用し、主に苦手な単元の学習内容を復習している。

・AB層の育成

○教師が「児童にとって主体的・対話的で深い学び」のある授業展開になるようにするために、例えば、国語科の説明文の学習において、高学年は自由進度学習を取り入れている。児童は自らすすんで単元のめあてに向かった学習を、友達や教師と交流しながら行い、まとめ学習をすることで、力を伸ばしている。